

追跡レポート

あの質問 どうなった？

議員の質問・提言に答える町執行部、その答弁がその後どうなったのか、どう町政に反映させているのか、対応を追跡しました。

令和4年3月定例会 一般質問

黒田 政徳 議員

広野町振興公社の経営状態は

町が100%の出資で運営している広野町振興公社の経営状態はどのようになっていますか。赤字の場合は株主である町の判断が必要となると思いますが、どのように考えていますか。

指定管理料の見直しを実施

経営赤字の状態であることから、令和4年度に広野町振興公社の会計処理の透明性、事業の予算配分、実態を把握し、令和5年度以降の二ツ沼総合公園、公設商業施設の指定管理料については見直しを行います。

経費の明確化を図りました

令和4年度に真に必要な経費の精査を行い、令和5年度予算においては施設管理に係る経費（指定管理料）とふれあいフェスタ、バナナ事業等のまちづくりに係る経費（事業委託料）を個別に計上して明確化を図りました。

7人の議員が町政を問う

門馬 巧 P13

- 町民バス運行事業実績について
- デマンド交通体系構築について

渡邊 正俊 P14

- 物価高騰に対する農家支援対策について
- 企業誘致について

北郷 伯弘 P15

- 移住定住について
- 異次元の少子化対策について

門馬 まりえ P16

- がん検診の受診率について
- 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けの変更について
- 公立小中学校の学校図書館について

畑中 大子 P17

- 中間指針見直しによる賠償金について（中間指針第五次追補決定）
- タクシー券の増額と町民バスの循環方式について
- 町が主体となった直売所経営について

遠藤 浩 P18

- 広野町ゼロカーボンビジョンの推進について
- 郷土（地域）学習について

小磯 利雄 P19

- 令和5年度施政方針について

一般質問は、行政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、説明を求めたり所信を問いたですものです。

町民バス

利用の状況は

町長／平成25年度以降 7万8千人が利用

門馬：町民バス事業は平成10年4月運行開始以来25年を迎えようとしています。その間多くの町民の方々の移動の足となり、利便性の向上に大いに寄与してきました。平成23年3月11日時点での町人口5490人を要した我が広野町です。町当局の創意工夫の賜物と実績を振り返るのも、この期に臨んでの我々の責務である批判と監視であると思以下に質問します。町民バス運行事業中に乗車した人数

町長：現存する平成25年度から令和5年3月1日現在までの資料では、延べ乗車人数は7万8464人となります。

門馬：町民バス運行事業中に要した総事業費

町長：平成25年度から令和5年3月1日現在までの町民バス運行事業に係る総事業費は1億6758万円となっています。

デマンド交通

この政策について提案を

町長／町民の声を捉え福祉の向上に取り組む

門馬：我が町の人口は、少子高齢化率がすすんでいます。さらに後期高齢者人口703人中100歳以上の方が5人います。この様な人口構成の中この度、広野町地域公共交通活性化事業なるものを、提案を受けました。この政策では遠隔地町民は生活が成り立ちません。地域間の差別です。本町において私の知る限りこの様な差別政策は記憶にありません。この様な政策は絶対取るべきではありません。そこで私は、次の提案を致します。①デマンドタクシーの利用については、本人が、所定の場所に連絡をする。②利用については、65歳以上の町民に限る。③利用者は、一乗車につき300円を、負担する。④利用範囲は町内のみとするが、距離の制限はないものとする。⑤一日当たりの利用回数については、制限がないものとする。

町長：人口減少及び高齢化の進行による交通弱者の増加に対応するため、町民バス運行事業及びタクシー利用料金助成事業の総合的な見直しを検討してきました。

地域公共交通の見直しにより、循環バス経路外の住民の方々の病院・公的機関及び生活するに必要となる移動において、町民お一人お一人の利便性、交通機能の効率化が図られることとなります。

今後も町民の声を捉え、広野町地域公共交通活性化事業※1、NOSSSE（のっせ）の運行により福祉の向上に取り組んでいきます。



もんま たくみ 門馬 巧 議員

※1 親しい方が歩いてるところを見かけて「のっせ」と言ったら乗せてあげる行為から名付けた愛称